027
280
1

利百約

蓬山

序

027
280
1

愛知女專
第1728號
圖書

是女性の為わすこたとは
附句かずし一書経とゝいふ雅
じめに清らかに流るゝをも流くし
出るも流れ経くれかゝみちるん
ちゝしすうしなれハ歳物徳ちのまゝ
しかるにそれにもことしは友の乃
夢想を武山の面梅に頓に探

素経四年虎の袖らにしきるゝ虎と
いへれにもれをつれしとてそれ
いへるさし読東門子に附
しるなり経さしても深閑
ならと補ふにかの

延享丁卯秋

源紫

正月十五日

麦林下句會

蓬莱は一さを春の長閑　乙由

冰ゐてあるかの雪の乃ち雪　杜菱

淀やゝの雪と雪を語るなり　曾北

雪ゆゑ雪ゆゑ雪の淀曙の淀　夜白

梅ゝて見も自も新しく　彭里

つゐに山はゑる蓬を振袖　加丁

風土記もぐるぐるあるるる春　春陵

ウ

あれ淀は只唐くやる　昇皮

淀の鶴くゝ家のあもりあも煙　杜莫

淀の花ゝ乃ゝ乃ゝ川母　東棠

雪ゝれ鶴のもれもいれ乃　兎士

そやる淀家淀家もゝんゝ　八至

おもれ合ゑゝ鶴乃かゝゐ　柳玉

鶴立れ乃を猫もゝる兎れ　乙香

梅五　白毛
芦文　素道
八重　桃京　紫止

二

紫止　孫
不孫　桃如
東枝　梅路
祖翁　浴秋
乙風

[illegible]

執筆

[illegible]

由

風を葉ゝあらしの跡のおもゝ

萩

[illegible]

如

[illegible]

業

鶴もさゝぬ柳ちるなる

[illegible]

止

[illegible]

秋

[illegible]

孤

[illegible]

如

[illegible]

白

[illegible]

道

五月雨に[illegible]

虎

[illegible]

玉

[illegible]

毛

[illegible]

兼

下ぬきうち蒲団乃ゐとかり　丁
仰ぎ乃ぬぐ　ぬぎ　士
乃とつさ　つもり　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　多
他所へ　ゆき　いれ　中の　物　案　莫
新の　ぬ　と　追　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　文
一つ　つ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　浩
高　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　互

やうなる　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　弦
柚子　ぬ　月　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　里
形　茅　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　北
ぬ　長　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　夫
白　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　茅
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　茅
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

玉
毛
由
止
里
流
莫
虎

三ウ

秋
互
白
苔
支
文
ル
紫

名

道
丁
海
苔
止
秋

芝
互
玉
江
由
毛
小

名ウ

たふ野と見よ松の葉を沸かり　季

裸にはなれと盥ちいさし　里

汐曇や戸に掛さゝれけり　棠

ちるれあて絶末もよふ言ツ　互

かくし蔵落葉ハ秋の時　由

梅花宿居やれ麈も紅　孤

追加

傘に押わけ見たる柳かな　芭

秋の空尾上の杉にはなれけり　其角

名月や柳の枝を空へふく　嵐雪

応々といへとたゝくや雪のかと　去来

大原や蝶の出てまふ朧月　丈艸

猿川の凉や猿猴梢うつる　涼菟

牛呵声に鴫たつ夕かな　支考

風土記に云ふ所の不老の泉 孔雀
富士の山駿河国と甲斐国との境 岸花
うくひすの花母もなきうの花 菊軒
かつらの花もあり梨子の花ト 如之
桃の葉紅黄ちるぬるや果は逝 坐来
黄なる日の花紅白一面市 東星
つゝ世れなるみやけあり 杜芳
恒人は神仙をのぞむ 巴青
日間

四月十五日 北枝
うえ初て見れば雪の峰 曾平
頭巾や鈴のゐもとひろげ 角浪
涼しさや陳るさゝ山の雪 枝繁
竹をまれ文殊経一本茅渡 星翁
機関をやうやうの山絵入 如本
大仏の一眼ぬさしひやりさけ 其行
星流の人書やもし 杜宇 司鶴

[illegible]に[illegible]月　帝国
むせくを[illegible]の[illegible]れはなをす　射楽
夕雨[illegible]　五菅
[illegible]　江支
[illegible]　ちよ
[illegible]　伽源
[illegible]　可之
[illegible]　麻父

[illegible]　梅
[illegible]　古道
[illegible]　亞[illegible]
[illegible]　宗陽
[illegible]　[illegible]
[illegible]　侍之
[illegible]　後川
十月乃[illegible]　芳九

きつつきや霧白妙に行路山　吉山

ゆふ暮の尾花乃おりね影やこと艸　大和 千代

秋しりや常に葉がくれの音慣世　兎丸

松原は日増にさまりて墟かれ　読由

青空に雁ゆくさきし雲の路　石梅

御つかれ居りし風の名残も嬉しさか　作升

聖りゆく後をたつ鳥や初茸　柳舟

梢より上に風ある嶺の雨　比谷

やかて出る揃ちて繁らし野辺山　曽北

かつ来の乃山と紅葉や新まの郷　浮石

岩がきね帰る縄まりふれ月　巳朴

萩の花も露に涼しき時あり花裾なる　琴也

稲つるや野も中の松に打ちあらし　呂破

ちる秋乃浅き風まりそれんは　眠雪

打まきに葉に名残りや子規　炭秋

咲ちりて橋乃下ゆく御かな　菊秀

冨士の影を笠乃うら隠時雨　梅路

新藁や笠ふりしきを遠あかね　草前

既のむかしの梅ながら蓬生　入梓

こおちる稲りを通られはし　秋至

風乃ましてまちる露ちる　常丈

言ひしてありけれや葉の花　芦吹

けり秋やふんのもよそのあき　呈堂

やよ川やあちひく柳に吹るゝ　友雅

涼しさや雲よるあらし杉の山　仙竹

うくひすの声もきゝなれもかな　行石

文月やまつ手習の雁なれ　蕉葉

梅が香や袖乃花の入り　石涼

秋乃露の跡うつしきくも　冬沼

新畑に行雲へと飛花の蕾　門影

鈴虫と啼かるゝ夏夜　百川

白川へ流るゝ秋乃暑さかな　涼盛

[illegible]　色士
[illegible]　松比
[illegible]　義尺
[illegible]　泗也
[illegible]　赤道
[illegible]　時古
[illegible]　温故
[illegible]　五井

[illegible]　翻白
[illegible]　知古
[illegible]　朱仁
[illegible]　秋山
[illegible]　柳古
[illegible]　義林

跋

風乃一日ゆかて春游の年を経るか
きしも或経済しくみハ浅し逸
ハうり探み来の珍れ深ゆて文緒の
新古韻も風体ハ流しか不易し
比時中れ人くもゐく經植草に
稀に名さん消えて出かりく

おりゆきすれも跡乃露ありけ柳も
くぬれて来うし經さらぶ作者なり
し経くほ梅清くふまつりもとあまた
みかうて業ふつりになりとまさる
わりきてに春妹先湖飛とみと
青れ當時雲に半高中れ月をと見る
目出しるうを芳あるさそく

ゆゝしき事なり世に八つ[illegible]あり
一ニ下れ佛法之解脱なり此中
二解脱を得る者と[illegible]と言葉乃
[illegible]情愛[illegible]連中三十人
[illegible]なれつゝ[illegible]乃ふ[illegible]
一者あり[illegible]桃川[illegible]人の遊
座[illegible]

また[illegible]血れ[illegible]なれ[illegible]
[illegible]あ[illegible]彫刻あ[illegible]
標[illegible]
一字[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

明るぬるとなるあるへきうれとぞは
かつしらのなるとなりなるとなるる

月日　柳居澤之

延享四丁卯仲秋

書林　京寺町二條上所井角屋庄左衛
江戸出雲町蔦屋辻村五兵衛　板